## （２）資産に含まれる文化財

### ①資産候補の整理表

<table>
<tr><th>番号</th><th>名　　称</th><th>所在地</th><th>保護主体</th><th>保護の種別</th><th>面積㎡</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>阿蘇の草地景観</td><td>阿蘇市・南小国町<br>小国町・産山村・<br>高森町・南阿蘇村<br>西原村</td><td></td><td>未指定<br>（文化的景観）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">〔概要〕<br>世界最大規模のカルデラの外輪山周辺の草地は、「野焼き」及び「輪地切り」など草地管理に関する伝統的な「採草火入れ放牧」という有史以来の人々の生業の営みによって育まれてきた独特の草地景観として貴重である。また、この草地は、大陸系の植物を始めとする稀少な動植物など草原生態系を育む舞台ともなっている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>米塚</td><td>阿蘇市</td><td></td><td>未指定<br>（名勝）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">〔概要〕<br>米塚は、阿蘇五岳の一角である杵島岳と往生岳から派生した火口である。阿蘇にあって人々の記憶に強く残る景観で、均整のとれたほぼ完璧な円錐状形である。（標高 954 m・標高差は約 100 m）<br>天からあたかもお米がそこに降り注いで山となったような形であり、阿蘇を開拓した神、健磐龍命が収穫した米を積み上げてできたという伝説の舞台でもある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>中央火口丘</td><td>阿蘇市・南阿蘇村<br>・高森町</td><td></td><td>未指定<br>（天然記念物）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">〔概要〕<br>一般に阿蘇は単体の山ではなく中央火口丘群の根子岳・高岳・中岳・烏帽子岳・杵島岳等を総称したもの。中岳の火口は現在も時々噴火する活火山である。今から約９万年前に発生した４回目の大火砕流噴出に伴い巨大な陥没カルデラ形成の後、活動を開始した。これらは、北側外輪山の大観望からは、ちょうど涅槃像のように見え、その姿を成すのがこの阿蘇五岳である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名　　称</th><th>所在地</th><th>保護主体</th><th>保護の種別</th><th>面積㎡</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>阿蘇神社</td><td>阿蘇市</td><td>国</td><td>重要文化財<br>(建造物)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">〔概要〕<br>阿蘇開発の神である健磐龍命を主神とする阿蘇神社は、古くは肥後国一の宮と称され、広く尊崇を集めた。境内には近世後期に建造された社殿や楼門など壮大な建造物が残されており、これらは、近世社寺建築の一つとして高く評価されている。なお、阿蘇神社の年間を通した米作りに係る神事（御田植神幸式、火焚神事ほか）については、「阿蘇の農耕祭事」として、国の重要無形民俗文化財に指定されているほか、阿蘇神社等に伝来する中世期の古文書群も、国指定重要文化財として、武家の棟梁として活躍した阿蘇氏の動向を伝えている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>中通古墳群（なかどおりこふんぐん）</td><td>阿蘇市</td><td>県</td><td>県指定<br>（史跡）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">〔概要〕<br>阿蘇市一の宮町中通地区に所在する５～６世紀にかけて築造された古墳群。車塚、鞍掛塚など８基の円墳と、長目塚など２基の前方後円墳からなる。阿蘇君一族の古墳であると推定される。県下最大の前方後円墳をはじめ１０基の古墳群は県指定文化財で、東岳川をはさんで東部群と西部群に分けられる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td>豊後街道歴史の道（ぶんごかいどう）</td><td>阿蘇市・産山村</td><td></td><td>未指定<br>（史跡）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">〔概要〕<br>豊後街道は、熊本城下から出発し、大津や阿蘇内牧を経て豊後鶴崎へと抜ける肥後の主要な街道で、阿蘇谷のほぼ中央部を横断している。瀬戸内海を経由して上方方面へ抜ける主要ルートとして、加藤清正や歴代の細川藩主も参勤交代の際にしばしば利用するなど重視された。近辺には藩主休息のために作られた「的石（まといし）の御茶屋」や外輪山を越える二重峠などを中心として、往事の姿を伝える石畳の道が残っている。</td></tr>
</table>

②資産候補ごとの位置図と写真

## １．阿蘇の草地景観

北外輪山（草地）

野焼き

阿蘇五岳と南郷谷

## ２．米塚

放牧

外輪山（草地）と阿蘇谷

米　塚

## ３．中央火口丘

阿蘇くじゅう国立公園
菊池渓谷
阿蘇市
阿蘇山
往生岳
杵島岳
烏帽子岳
中岳
高岳
根子岳
御鷹門山
南阿蘇村
Minamiaso

中岳火口

## ４．阿蘇神社　５．中通古墳群

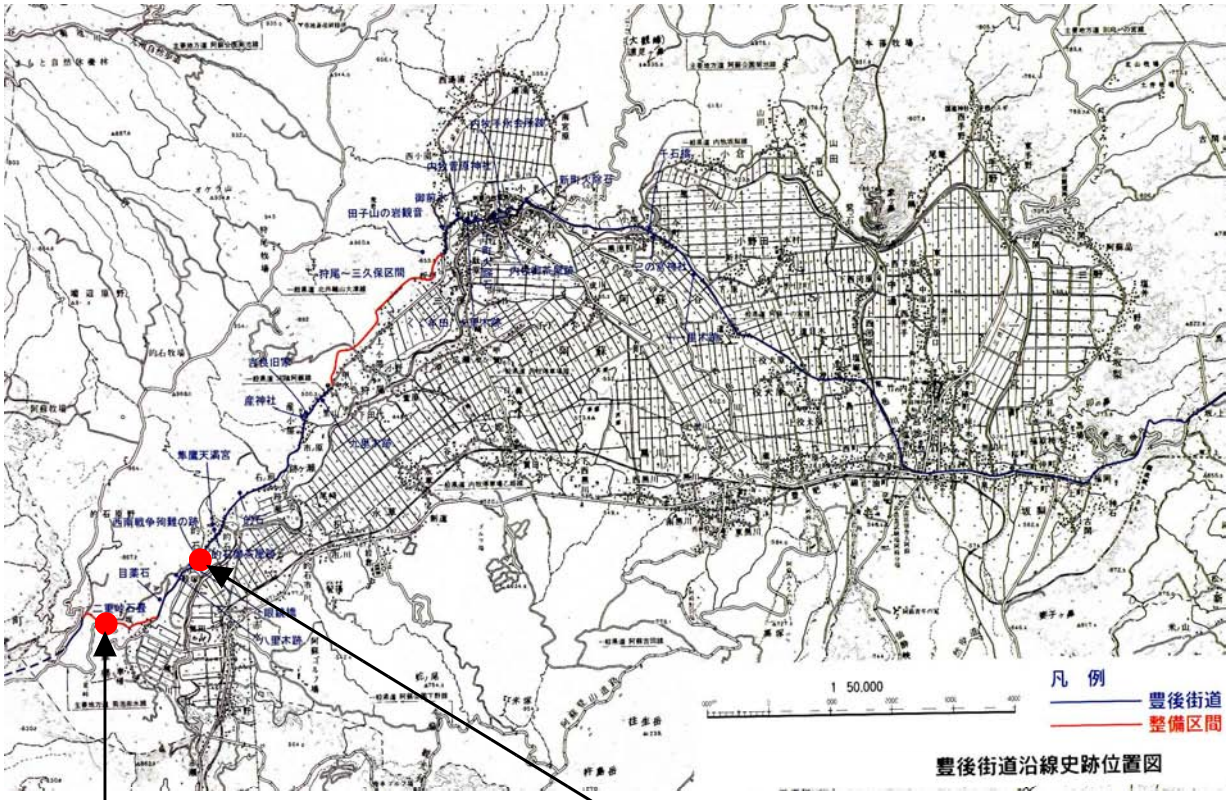
阿蘇神社楼門・還御門

阿蘇神社楼門

御田植神幸式

中通古墳群

## ６．豊後街道歴史の道



的石の御茶屋

豊後街道歴史の道（二重峠）